

登録番号	プロトコール名			
C90-51	多発性骨髄腫 Dara+Bd (1-3コース)			
診療科	血液内科	1クールの日数	21日	
審査日	2017年12月25日	所要時間	415分	適応外使用 <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
適応病名	多発性骨髄腫	放射線療法	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
実施部署	<input checked="" type="checkbox"/> 外来、 <input checked="" type="checkbox"/> 病棟、 <input type="checkbox"/> その他()			
適応分類	<input type="checkbox"/> 初発、 <input checked="" type="checkbox"/> 進行・再発、 <input type="checkbox"/> 術後補助、 <input type="checkbox"/> 術前補助、 <input type="checkbox"/> その他()			
番号	抗がん薬名	1日投与量	投与方法	投与日(d1, d8等)
1	Daratumumab(ダラザレックス)・D	16mg/kg	d.i.v.	day1,8,15
2	Bortezomib(ベルケイド)・B	1.3mg/m ²	s.c.	day1,4,8,11
3	Dexamethasone(レナデックス)・d	20mg	p.o.	day1,2,4,5,8,9,11,12
4				
5				
6				
7				
8				
エビデンスレベル	<input checked="" type="checkbox"/> 治療 (エビデンスレベル <input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 6)			
ガイドライン文献名	N Engl J Med 2016;375:754-66.			
その他(減量・増量規定、プロトコールに関する補足説明など)	<p>ダラザレックス投与によるinfusion reactionを軽減させるために、本剤投与開始1～3時間前に副腎皮質ホルモン、解熱鎮痛剤及び抗ヒスタミン剤を投与する。</p> <p>ダラザレックスは生理食塩液を用いて希釈後の総量を500-1,000mLとし、50mL/時の投与速度で点滴静注を開始。Infusion reactionが認められなかった場合には、患者の状態を観察しながら投与速度を変更する(投与速度の上限は200mL/時)。</p> <p>ベルケイドの投与量は、末梢神経障害の程度に応じて適宜減量する。</p> <p>デキサメタゾン75歳以上の場合、BMI<18.5の場合、過去にグルココルチコイドで重篤な副作用の既往があった場合に20mg/週に減量する。</p>			

プロトコールに関する解説	
<p>プロトコールに関する解説はありません。</p>	

がん化学療法処方

プロトコール名		1クールの日数	
多発性骨髄腫 Dara+Bd (1-3コース)		21日	
投与日	薬品名(※赤字は抗がん薬)	投与経路	投与時間
day1,2,4,5,8,9,11,12	レナデックス 20mg § ダラザレックス投与日は、投与1時間前までに内服。 2コース目以降は問題なければ15分前まで短縮可。	経口	
day1,8,15	① カロナール 400mg, ネオマレルミンTR 6mg § ダラザレックス投与1時間前までに内服。2コース目以降は問題なければ15分前まで短縮可。 ② ソルコーテフ 200mg + 生食 50ml § ダラザレックス投与直前 ③ 生食50mL(フラッシュ) ④ ダラザレックス 16 mg/kg + 生食 * 0.2µmのインラインフィルターを使用すること ⑤ 生食50mL(フラッシュ)	経口 点滴静注 点滴静注 点滴静注	15分 5分 5分
day1,4,8,11	ベルケイド 1.3 mg/m ² + 生食 * * * ダラザレックスの希釈・投与速度について; 生理食塩液を用いて希釈後の総量を1,000mLとし、50mL/時の投与速度で点滴静注を開始。Infusion reactionが認められなかった場合には、患者の状態を観察しながら希釈後の総量及び投与速度を以下のように変更することができる。 ただし、投与速度の上限は200mL/時とする。 本剤の希釈後の総量及び投与速度 ①初回投与 希釈後の総量:1,000mL 投与開始からの投与速度(mL/時) 0~1時間:50 1~2時間:100 2~3時間:150 3時間以降:200 ②2回目投与 希釈後の総量:500mL※1 投与開始からの投与速度(mL/時) 0~1時間:50 1~2時間:100 2~3時間:150 3時間以降:200 ③3回目投与以降 希釈後の総量:500mL 投与開始からの投与速度(mL/時) 0~1時間:100※2 1~2時間:150 2~3時間:200 3時間以降:200 * * ベルケイドは最終濃度2.5mg/mLになるように溶解する。 ※1: 初回投与開始から3時間以内にinfusion reactionが認められなかった場合、500mLとすることができる。 ※2: 初回及び2回目投与時に最終速度が100mL/時以上でinfusion reactionが認められなかった場合、100mL/時から開始することができる。	皮下	
プロトコール 適応時 表示コメント	day1,2,4,5,8,9,11,12にレナデックス20mg内服。ダラザレックス投与1時間前までにレナデックス20mg+ネオマレルミンTR6mg+カロナール400mg内服する(ただしday15はレナデックスの前投薬なし)。2コース目以降は問題なければ15分前まで短縮可。		
照射併用時 照射線量	グレイ (備考欄:)		